

リハビリテーション用両眼視野検査プログラムとゴールドマン視野検査の関係

桔梗ヶ原病院

園原 和樹

【背景】日本の道路交通法では、視野障害者の運転可否について明確な基準はない。

【目的】視野障害者の運転支援では、ドライバーが運転席に座った時の視野範囲（以下「運転時の視野」）を把握することが重要となる。本報告では、運転時の視野と視野計の測定範囲の関係を明らかにすることを目的とした。

【方法】（１）普通自動車 15 台の視野角度の計測をもとに運転時の視野画像を作成する、（２）運転時の視野画像と視野計の測定範囲を組み合わせた画像を作成する。視野計としてハンフリー視野計とゴールドマン視野計を用い、視野計による視野の測定範囲はメーカーが公表したデータを使用する。

【結果】運転時の視野画像と視野計の測定範囲を組み合わせた画像を作成することで、運転時の視野と視野計の測定範囲の関係を明らかにした。ハンフリー視野計とゴールドマン視野計から得られる視野の測定範囲は、運転時の視野をカバーしていることが確認された。